

こぶしの花*

特集

新たな学びの魅力・リベラルアーツが始動します



本学をはじめ、青森公立大学、青森大学、弘前大学の大学生が青森市新町に集った「学園祭 in AOMORI 春フェスティバル」(4/27)

Pick Up! 昨年度の本学就職実績とキャリア支援 5

青森中央学院大学 6

青森中央短期大学 8

青森中央経理専門学校／青森中央文化専門学校 10

附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化保育園／浦町保育園 12

学園共通 14

新たな学びの魅力・ リベラルアーツが 始動します



基幹教育センター長・教授 大泉 常長

近年、日本でも、さまざまな大学の授業でリベラルアーツが取り入れられるようになりました。本学では、リベラルアーツを、いわゆる「教養教育」という意味だけではなく、建学の精神「愛あれ、知恵あれ、真実あれ」に基づく人間形成のための学びの基盤として、先行き不透明で不確実性が高まる現代社会において、明確な答えのない課題等を解決していくための知識やスキルの習得を目指すものとして位置づけています。

基幹教育センターは、これまで学部・学科横断教育の導入に向けた検討・調整役を担いながら、本学のリベラルアーツ教育に個性・特徴を生み出すことに尽力してきました。データ分析・活用能力を備え、データから新たな価値を生み出す人材の育成が急務であることを背景とした「データサイエンス・AI基礎」の全学共通必修科目としての設置、情報の真偽を見分けることに意識的に取り組もうとする「科学リテラシーと批判的思考」の科目設置は、そうした取り組みの成果です。

今年度、青森中央学院大学・青森中央短期大学では、各学部・学科の教養教育をコモンベーシックスとリベラルアーツに再編し、学部・学科横断教育として展開しています。この編成に携わった、青森中央学院大学経営法学部の鈴木克成教授と、青森中央短期大学食物栄養学科の棟方秀和教授にお話を伺います。

聞き手：事務局長 石田 壮平

リベラルアーツ教育が 必要とされる理由

石田：教養科目再編については、基幹教育センターが主体となり、2023年にリベラルアーツワーキングを立ち上げ、先生方にも参画いただきました。再編の際にご尽力いただいたお二人ですが、それぞれリベラルアーツ科目もご担当されています。



鈴木：昨年から新設の「科学リテラシーと批判的思考」を担当しています。今、SNS全盛のなか、フェイクニュースが出現して真偽がものすごくあいまいな情報が氾濫しています。また、AIを利用して文章も書くし画像も作る。まず情報の真偽を見極めて、だまされないことが喫緊の重要な課題です。さらにグローバル化に対応することも重要です。複雑で不確実な状態に対応していける人材を育成することが大学に求められていて、学生の批判的思考力をこの科目で涵養したいと思っています。

棟方：私は化学とか自然科学が専門になるので、経営法学の分野はよくわかりませんが、「自然と化学」では受講学生の8割が経営法学部の学生です。化学には環境を壊してきた「悪いやつ」のイメージがあり、便利ではあるけれども環境に負荷をかけてきた分野です。でも、現在は地球温暖化対策に化学が貢献しているというようなことを、原理仕組みはさておき知識の幅を広げる意味で教えています。人間としての価値観、視野を広げるためにリベラルアーツはあるのかなと思っています。

石田：「科学リテラシーと批判的思考」で

は、お二人とも関わっていますね。

鈴木：これは、人文社会科学・自然科学を含めたすべての科目で学修する内容に関し、その情報の真偽を見極める力を涵養する科目です。栄養、化学、医療、環境、統計データ、いろいろな分野の教員に各コマを網羅的に担当していただき、とても良い科目だと思っています。ただ、時間割の都合もあり受講生が少ない。一般公開すればいいですよ。最近、エビデンスもなく全部が個人の感想にすぎないような怪しい健康食品コマーシャル多くないですか。

棟方：あれはうまく編集しているだけなんです。感想と研究部分をつなげてみるとあたかも根拠があるように見えてしまう。私は、昨年は「紅麴」の話をしました。いろいろな食べ物の情報や、どれが正しくてどれがガセネタなのか、どうしたら見極められるのか。また、その情報からちゃんとした根拠にたどり着けるのか、それとも何も出てこないのか、そんなことを授業でしてます。

鈴木：いろんな分野のことを知ること、少し慎重になってくれればいいですよ。入ってくる情報に関して、これ本当

にエビデンスがあるのだろうか、ということも少しでも考えてくれるようになったら、この授業の意味があると思うんですね。

“知的体力”を鍛える リベラルアーツ教育

石田:私は社会人になってから教養教育の大切さに気付きましたが、二十歳ぐらいのころはわかりませんでした。「リベラルアーツって大事だな」と学生に気付かせるにはどうすればよいでしょうか。

鈴木:気付きを促すというのは言うほど容易ではありません。でも、世の中の問題を自分事としてもらうために、教員たち



もさまざまな工夫をしています。あるいは、あまり興味なかった学生でも卒業論文作成を通して問題と向き合っていくうちに気付くケースもあります。学生は重要だと思ったら勝手に勉強し始めるので、仕掛けを作り、将来社会人となってどこかで効いてくるようなことをしています。

棟方:私の科目では、1回目の授業でいかにその気にさせるか考えます。例えば、みんな知っている「産業革命」。その時に人口が増えたわけですよね。それを支える食べ物はどうして生産できるようになったのか。化学肥料ができて安定生産できるようになったから、人口を支えられたんだよ、という感じです。社会科で習った産業革命を化学の視点で教えます。

鈴木:私の場合は「哲学」「倫理」なので、ガチでやれば抽象度の高い内容になります。だから「これ何の意味があるんですか」と聞かれることもあります。かみ砕かないと、皆ついてこれない。最初にどれだけ面白いと思ってもらえるか、どういうエピソードを用意すれば自分事とし

て考えてもらえるか、いつも考えています。学生に考えてもらうための仕組みとして、常に課題や問題を設定して、学生たち自身に考えさせて、話してもらう。同じ学生がこんなすごいこと考えているんだと知ることができれば、コミットの度合いが高くなると思い、試んでいます。

石田:全学必修科目「データサイエンス・AI基礎」の担当教員の話ですが、計算式や数学のイメージが出てきた時点で、苦手意識を感じてしまう学生もいるので、数式や理論の解説よりも、手を動かしてやってみることを重視しているとのこと。

棟方:私は化学反応式を使わない化学の授業をします。まあ最小限は使うけれども多用しないように、化学がどう応用されているのかを中心に話しています。

石田:リベラルアーツの枠組みができた今、どのようにコミットさせていくかということは、基幹教育センターの課題ですね。

鈴木:リベラルアーツでは、学生たちに考えさせることがすごく重要だと思っていますが、科目によってはきちんと覚えてほしいというものもあります。例えば、基本的な4つの道徳原理は知識として覚え、問いに対してどの原理が適切かは考えなければなりません。あてずっぽうではなく知識として覚えておくことは必要です。大学は授業の中で知識を使う練習をしていく場所でもあります。

棟方:計算問題は答えを出すじゃないですか。でも世の中は逆で、現象とか結果は観察できるけど、なんでそうなったかということを考えますよね。今までは問題を与えられて答えを出してきたけど、世の中の現象の原因ってわからない。それが考えるってことですよ。



石田:卒業論文で仮説をたてて根拠を探していくというプロセスと一緒にたどろうなと思います。その時にリベラルアーツで培った知的体力や考える習慣が活かせるのではと感じます。

異なる専門性を目指す 学生たちへ

鈴木:本学には看護学部がありますが、例えば看護学部の学びは国家試験に受かるためだけの勉強ではないと思います。看護師が関わるのは生身の人間ですから、技術だけでなく人間な幅、価値観があることをやはり知っていてほしいです。社会がこういう課題を抱えていて、人間がどんなふうに苦しんでいるのか知ってもらったほうが、それぞれの場所で活躍できる。



棟方:公務員になって行政の仕事に携わるときも、大学で得たもののおかげで、今までにない新しい観点で物事を考えられるかもしれないですね。

鈴木:公務員志望の学生は、どちらかといえば公務員試験のことばかり考える傾向にありますが、政策の背景や、どんな問題を抱えているかを知っておいてほしい。公務員、看護師、栄養士、保育士も、本当はみんな、社会をよくするための仕事をしているじゃないですか。特に社会の仕組みにかかわっている公務

員が、人々にとって何が望ましいかを考えることは必要で、政治思想や社会哲学の授業を受けてほしいです。

棟方:2016年から青森中央短期大学の中期計画「こぶしの花プラン」では、教養教育の重要性が挙げられていました。短大は授業の一環で毎年「青森ねぶた祭」にも出続けていますし、専門分野だけではなく人間性を育むという思いが、面々と受け継がれています。私は理系・文系という分け方はあまり好きじゃないです。ベースには、いろいろな知識があっていいと思います。

地域に開かれた リベラルアーツ教育

石田:ところで、リベラルアーツ一般公開の話も出ていましたが。

鈴木:この授業で批判的思考を獲得している学生もいて、そういった学生から「家族がSNSに影響されている」という話を結構聞きます。リベラルアーツの知的体力を広く市民社会に広げていくことも大学の役割だと思います。

棟方:大学での学びは「卒業の要件を満



たせばいい」ということではなく、「この科目受けたいな」と思って選択してほしい。卒業の要件を満たす単位取得数は124で昔と変わらないけれど、教養科目の単位数は少なくなっています。短大では難しいかもしれないけれど、学院大学生は4年次まで興味を持ってリベラルアーツを選択してほしいですね。

鈴木:本学の特色は、基本的に社会の中で実際に活用できる知識を身に付ける実学志向の大学であることです。しかし同時に人間としての広がりや深まりも備えて社会に出て行ってほしい。大学がリ

ベラルアーツ教育に意義を見出だすのは教員としてはうれしいことですが、二十歳前後の学生が自分に役立ちそうなことを優先しがちなのは、自分もそうだったしょうがないと思います。でも、後々ジワッと効いてくる知的体力を学生にはつけてほしいです。本学にはずっとリベラルアーツ教育を大切にしてほしいと思っています。

(5/29アクティブラーニング教室にて収録)



青森中央学院大学 経営法学部教授
鈴木 克成

東京都新宿区出身、筑波大学大学院博士課程哲学・思想研究科単位取得満期退学。1995年青森中央短期大学専任講師を経て、1997年青森中央学院大学開学と同時に専任講師としてリベラルアーツ科目である「人間と哲学」担当開始。2010年より現職。ほかに「人間と倫理」「科学リテラシーと批判的思考」など。青森中央学院大学学習支援センター長。てつがくカフェ@青い森主宰。



青森中央短期大学 食物栄養学科教授
棟方 秀和

青森県弘前市出身。弘前大学理学部化学科卒、弘前大学大学院理学研究科化学専攻修了。弘前大学医学部生化学第一講座助手を経て、1999年より青森中央短期大学講師。2014年より現職。生化学、基礎栄養学、食品学Iなどの専門科目、自然と化学、科学リテラシーと批判的思考(分担)などのリベラルアーツ科目を担当。

Pick Up!

昨年度の本学就職実績

とキャリア支援



キャリア支援センター長 竹内 紀人

本学園設置校の2025年春の就職内定率は、学院大の経営法学部が99.3%、看護学部と別科助産専攻がともに100%、短大では食物栄養学科が100%、幼児保育学科が100%と例年同様の高い内定率を維持した。青森中央文化専門学校、青森中央経理専門学校においてもそれぞれ100%、96.5%という結果であった。「就職に強い青森田中学園」の看板はゆるぎないものとなっている。

日本中が人手不足に悩んでおり、学生から見ると超売り手市場の状況が続いている。しかしながら、ほば

100%の実績は簡単なことではない。また経営法学部の県内就職率は60%に迫る実績であり、学校基本調査による県内大学の地元就職率37.9%（2024年3月）を大幅に上回る。県を挙げて取り組んでいる若者の地元定着という意味でも本学の貢献度は高い。

企業側の採用活動は年を追うごとに早期化の傾向にあり、学生が落ち着いた環境の中で学修できる時間が圧縮されつつある状況は目下の課題である。そうした中、インターンシップ制度が改正され、教育の建前下、実態は早期の採用活動というびつな在り方から、要件が整っていることを条件に就職活動直結が可能となった。学生の就職意識の高揚という意

味で、また、知名度が低い地元企業のPR機会という観点からも、これまで以上にインターンシップの意義が高まるなど、時代の変化は大きい。

しかしながら、キャリア支援の根本的な考え方は変わらない。就職ではなく、各々の人生を学生に考えさせようという方針である。その上で、職業に関しても、選択肢を増やし、疑似体験を増やす観点から、これからもさまざまな地元企業や地元で活躍する人々と学生との接点を増やしていきたい。学生を地域に縛り付けようとしてもそれは無理なこと。しかし、地域や地元企業の良さを知らない結果、地域を離れる若者が多いのであれば、それは知る機会を提供できなかった大人たちの責任である。

本学の就職支援・キャリア支援



学内企業就職セミナー

翌春卒業予定の、青森中央学院大学と青森中央経理専門学校の学生を主対象とした就職セミナー。3月1日の企業採用活動解禁に合わせて毎年実施している。



看護学部病院等説明会

県内就職率向上を視野に、看護学部3年・2年対象の県内病院・施設が参加する説明会を実施している。



学内企業就職説明会

食物栄養学科学生に向けて、栄養士を採用する給食委託・食品関係の企業・施設が参加する説明会を実施。また、幼児保育学科学生に向けて、県内の幼稚園・保育園による合同説明会を実施している。



経営法学部キャリアプランニング

1年次より段階的にキャリア教育や職業意識を高めるプログラムに取り組んでいる。写真は講座の一例で、学生が地元企業を訪ねPR動画を撮影・制作するメディアリテラシー講座。



看護学部キャリア支援セミナー

多職種に渡る医療従事者の講話や、先輩からの就活アドバイス、現場で働く卒業生との対話等、看護専門職という夢の実現を支援するセミナーを開催。



青森中央短期大学
就活支援セミナー

就職活動の基本的なマナーや情報収集方法等を学ぶセミナー。就活メイクを学ぶ講座後に就活用写真を撮影。

就職実績 (2024年度卒業生)

※2025年春

青森中央学院大学

経営法学部
・日本人学生就職率 **99.3%**
・公務員採用者数 **17人**

看護学部
・就職率 **100%**

別科助産専攻
・就職率 **100%**

青森中央経理専門学校

・就職率 **96.5%**

青森中央短期大学

食物栄養学科
・就職率 **100%**

幼児保育学科
・就職率 **100%**

青森中央文化専門学校

・就職率 **100%**

■ 学園祭in春フェスを振り返って

私は青森市中心街で開催された「AOMORI春フェスティバル」(4/27)の一環として、「学園祭in AOMORI春フェスティバル」を企画・運営しました。

この企画は、青森県内の大学生同士の交流の希薄さや、大学生による伝統芸能やパフォーマンスの発表の場の不足、伝統芸能の担い手不足、若者の地域イベントへの参加機会の少なさといった課題を背景に、新たなコミュニティの創出や、地域文化の継承、地域参加を目的として立ち上げたものです。

学園祭当日は約70人の県内大学生が参加し、多くの来場者に今の大学生の

姿や、伝統文化の魅力を感じていただくことができました。この企画に関わっていた期間は本当に楽しく、日々が充実していました。企画や調整の難しさに直面することもありましたが、それ以上にや



▲青森市長を表敬訪問

経営法学部3年 石田 菜々花



りがいや達成感を実感できました。参加学生や企業の皆さまなど、たくさんの方のご協力があったからこそ実現できたと思います。この経験を糧に、今後の活動にも積極的に取り組んでいきます。



▲ともに実行委員を務めた青森大学の三上さん(右)と

■ リンゴ和紙の商品化を目指して

私たちは昨年度、「apple branch (アップルブランチ)」というグループ名で、青森市が主催する「青森フィールドスタディー支援事業」に参加しました。青森市浪岡地区を拠点に活動し、未利用資源である「リンゴの木の剪定枝」を活用し



▲和紙の漉き方を教える三上さん

た和紙の試作と、商品化を目指して取り組みました。

和紙の試作では、ゼミのメンバーにも協力してもらいながら試行錯誤を重ね、はがきサイズの薄い和紙を完成させました。その後、地域の方々との交流を目的に、リンゴ和紙を使った「クリスマスカードづくり」と、フラワー工芸作家を招いた「ひまわりのコサージュづくり」のワークショップを2回開催しました。幅広い年代の方々に参加いただき、楽しんでもらうと同時に、地域資源への関心を高める機会にもなったと思います。また、地域のデザイナーと意見交換を行うこ

経営法学部4年 三上 璃恋



とで、和紙の活用方法を模索し、商品化に向けた課題を明確にしました。

今年度は、柔軟な発想で実用的かつ魅力的な商品づくりに挑戦し、地域への愛着や貢献につながる活動を続けていきたいと考えています。



▲青森駅自由通路イベントで販売したリンゴ和紙作品

■ 本学の高大連携事業について

本学では高校生が行う地域課題の発見と解決に関する学習や、進路形成のサポート、高校教育の支援につながる教育資源活用を積極的に進めており、現在、連携協定を締結している県内8校の高



▲三沢商業高校との高大連携事業の様子(5/28)

等学校を中心に、高大連携事業を実施しています。

2025年5月28日、連携協定校のひとつである三沢商業高校の2年生が本学を訪れ、高大連携講義を受講してキャン



パス見学を行いました。経営法学部の市川聖講師が「課題の設定方法」と「アンケートの取り方」について講義し、高校での探究学習授業に役立てていただく内容となりました。また、午後に行ったキャンパス見学では、図書館や実習室、カフェテリア、学生寮等を見て回り、大学生活をイメージできたようです。

これからも、高校で実施する「総合的な探究の時間」「課題研究」をはじめ、ふだんの授業に大学の教育資源を活用できるように活動してまいります。





タイ・サイアム大学短期研修



サイアム大学短期研修では、日本の看護教育と違う点が多くありましたが、一番印象に残っているのはAIの活用です。タイの看護教育ではAIを活用し、一人ひとりがタブレットを見て講義を受け



ていました。さらに、予習や復習などでもできるシステムが整っていました。

また、この研修を通して新しい体験、文化、慣習など多くのことに触れ、人として大きく成長できたと思います。言語

看護学部2年 澤頭 空伽



が違う人とのコミュニケーション力、対応力の向上、日本にいることでは触れることのできない刺激、価値観からの視野の拡大、異文化に触れることで、多様性の中での柔軟な考え方が身についたと思います。海外に行く決心してそれをやり遂げたことで、行動力と自信もよりました。

私は海外に興味があるけれど語学面、安全面、孤独など様々な不安があり、行く決心ができずにいました。私と同じ人はいると思います。しかし、大学生の今、決意して行ってみると大きく成長できると思います。

台湾・馬偕医護管理専科学校海外研修

別科助産専攻では、国際母子保健の基礎と諸外国の動向を学修する選択科目「助産師と国際活動」があり、台湾で海外研修を行っています。台湾は日本と異なり医療制度上、助産師の専門性が活かされていないという課題があります。一方、産後ケアは文化的違いにより日本とは比較にならない程充実しています。

2025年2月の研修では、馬偕医護管理専科学校のICTを活用した教育、台湾の助産師の歴史と日本との関係、母乳育児の推進、妊娠期の保健指導の重

要性等、日本の助産業務との相違、共通点についてディスカッションしました。また、馬偕記念病院、産後護理之家（産後ケアセンター）は、ハード面だけでなくソフト面の向上に努める妊産婦管理を見



別科助産専攻教授 猿田 了子



学しました。

丸2日間、馬偕医護管理専科学校の先生、学生との交流を通し、台北を満喫できました。



研究紹介

看護学部講師 外 千夏 [研究・専門領域] 母性看護学 月経教育



皆さんの月経(生理)は健康ですか? 月経異常(ひどい月経痛がある、経血の量が多すぎる、月経が決まった日に来ない等)には、

不妊症の原因となる病気が隠れていることがあります。そのため、女性は月経に異常を感じたら、なるべく早く婦人科を受診し治療を継続することが大切です。しかし、実際は女性の50%が月経異常を経験し、その45%は症状を放置しています。また、私たちの研究では高校生の22.2%はひどい月経痛があるにもかかわらず未受診で、背景に高校生と母親が治療に強い抵抗感などを持っていることが明らかとなりました。ライフスタイルが多様化している現在は、子どもを産まない選択をして

いる女性もいますが、子どもを産みたいと思う日が来る可能性があります。産む選択を残したければ、思春期から月経を健康に保ち続けることが大切です。そのためには、月経異常による受診や治療継続にもっとポジティブな気持ちをもつことが必要です。

私たちは、女性が自分の月経の状態や受診に対する気持ちをアプリに入力すると、その人にあったメッセージを受け取り、女性が受診や治療継続に向け



▲母性看護学領域チーム
左から外講師、玉熊教授、駒井助手

て気持ちや行動を変えることを支援するシステムの研究中です。現在、大学生を対象に試験中で、女性のリプロダクティブヘルス(性と生殖の健康)への貢献を目指して研究活動を続けています。これまでの研究結果を研究紹介HPで紹介していますので、ぜひご覧ください。また、県内の中学生向けの思春期教室でも月経や性に関する健康について発信しています。



「女性の月経ラボ」
ウェブサイト



管理栄養士免許取得のための勉強会 ～ともに合格を目指そう～

8年目をむかえた『管理栄養士免許取得のための勉強会』は、食物栄養学科の教員が実施している卒業生のためのキャリアアップ支援事業です。

2025年3月2日に実施された第39回管理栄養士国家試験では、栄養士養成課程の既卒者の合格率が11.7%でしたが、本勉強会にご参加いただいた方3名から合格したとご連絡をいただいております。

本勉強会は時代を鑑み、ご自宅や職場でも学習できるように、平日夜7時～

8時10分にオンラインで年間30回ほど実施しております。大学ホームページへのお知らせは8月下旬を予定しています。また、参加費については、本学卒業生の方は無料、他大学卒業の方は有料(年間1万円)となっております。お知り合いの方にもお声がけいただけると幸いです。

ご自身のキャリアアップのためにご活用いただきたく、教員一同、皆さまのご参加をお待ちしております。

※詳細は大学ホームページからご確認ください。

《参考》昨年度実施した勉強会について

- 期間:9月～12月(週1～2日実施)
- 時間:19:00～20:10(70分=1コマ)
- 実施科目
 - ・公衆栄養学(2コマ)
 - ・社会・環境と健康(2コマ)
 - ・基礎栄養学(6コマ)
 - ・食べ物と健康(4コマ)
 - ・応用栄養学(2コマ)
 - ・臨床栄養学(2コマ)
 - ・栄養教育論(2コマ)
 - ・給食経営管理論(2コマ)

後潟漁港で漁業体験をしました

食物栄養学科の辻村明子講師が取り組んでいる「さかな丸ごと食育」プログラム事業の一環で、2025年5月11日、青森市後潟漁協所属の漁業者である西谷文昭さん、広江さんご夫妻から、ホタテ貝



漁業について学ばせていただきました。

辻村研究室の学生は漁船に乗って、養殖ホタテの籠の引き揚げを間近で見学しました。さらに、網や貝殻の付着物を海水で洗い流し、引き揚げたばかり



のホタテ貝をさばく体験もさせていただきました。

参加した学生は、「昨年の猛暑による影響でホタテの水揚げが激減していると、ニュースでは知っていましたが、実際に漁業者の方から教わるのができました。栄養士とフードスペシャリスト、フードサイエンティストといった資格・免許の取得を目指しているなかで、食材として美味しくいただくだけではなく、食育や付加価値に結び付けるためにはどうしたらいいかを考えるきっかけとなりました。」と話していました。



県産食材を使った商品開発について高大連携講義を行いました

2025年5月20日、青森商業高校3年生の課題研究の時間に、高大連携講義「青森県産品の利用による商品開発について」を行いました。

この講義では、青森県産品を使用し



たドレッシングやたれ、タコスのレシピを検討している2つのグループの生徒に対して、青森県産品の種類、ドレッシングやたれ、タコスに使用できそうな食材や調理法など、基本の作り方を交えアドバイスしました。レシピに利用できそうな県産食材や調理法などを具体的に示すことで、アレンジの仕方など商品開発の方向性についてイメージしてもらいました。

「青森県産品についてよくわかった」「今までにないものを作りたい」「どのような食材を選択したらよいかわかった」などの感想もあり、商品として県産

食物栄養学科特任講師 池田 友子

食材が形になっていく過程を楽しんで欲しいと思いました。今後、商品開発のために県産食材の選別、調理法や試作時の困ったことについてアドバイスしながら連携できたらと考えています。





「おしごとゼミ」から未来へ

幼児保育学科准教授 木村 貴子

2023年より開始した小中学生対象の「おしごとゼミ」も、今年で3年目となります。その間、看護学部や専門学校も参入し、年々幅広いテーマで小中学生へ各専門職の魅力を伝えていきます。今回は、食栄は「給食」、幼児保育では「運動遊び」をテーマに開催され

ました。ふだんキャンパスに立ち入ることのない世代が、教員や学生達と賑やかに過ごしている様子を見ると、少子化だからこそ教育機関として地域に提供できる事があるのでは、という希望や期待が膨らみます。

子どもの頃に憧れていた職業が、必

ずしも将来の仕事に結び付くとは限りませんが、本イベントが無数の可能性を持つ子どもたちに何かしらの影響を与え、その先の未来へと繋がってゆくことを心から願っています。



▲「給食」を学ぶ栄養士のおしごと



▲「紙ひこうき」で遊びながら学ぶ保育士のおしごと



▲参加者には「おしごとゼミ参加記念証」を配付

「ちゅっぴいチャレンジ」始まりました

幼児保育学科助教 畑山 朗詠

今年度より、附属第一幼稚園と連携した活動「ちゅっぴいチャレンジ」が開始されました。「ちゅっぴいチャレンジ」では、幼児保育学科の学生が所属する様々なサークルを通して、運動あそびや音楽あそび、絵本の読み聞かせなどを月一回実施し、子どもたちと一緒に多様な活動を展開していきます。

5月に行われた第一回目のチャレンジでは、「絵本サークル～のほほん～」によるおはなし会が実施されました。様々な絵本や紙芝居に、笑ったり驚いたり、

じっくり耳を傾けたりする子どもたちの姿がとても印象的でした。終わり際には、「えーもう終わり?」という子どもたちの声が聞こえ、また次回のおはなし会への

期待も膨らんだことと思います。

「ちゅっぴいチャレンジ」が学生そして子どもたち、双方にとって実りのある活動となることを期待しています。



自然遊びを通して学ぶビオトープでの合同保育

幼児保育学科准教授 木戸 永二



豪雪の影響か、4月になってもなお冬が色濃く残っていたビオトープに、つくしや桜のつぼみ、ミツガシワの新芽など少しずつ春の気配がしてきました。そんな4月17日に、今年度最初のビ

オトープでの合同保育が開催されました。附属第一幼稚園年中児の皆さんの驚きと楽しみに満ちた声と、それを受け止める幼児保育学科学生たちの優しい声掛けが響いています。

子どもたちはビオトープでの遊びを通して、自然との関わり方、生き物との接し方を楽しく学びます。「なんかうごくのいた!」「これ、ぼくがつかまえたさかなだよ!」「これたんぽぽかも」といった新鮮な反応にあふれていました。学生たちはそうした子どもたちの元気さに圧倒されつつ、自然が子どもに与え

る影響力を感じとっていたようです。

ほぼ月1回のペースで合同保育は開催予定です。これから夏に向かって変化する自然の様子を、子どもたちも学生も感じ取ってくれることでしょう。



青森中央経理専門学校 青森中央文化専門学校

青森中央経理専門学校

青森中央文化専門学校

■ 専門学校のホームページがリニューアルしました!

2025年3月26日より、青森中央文化専門学校・青森中央経理専門学校のウェブサイトが新しくなりました。各専攻・コースの紹介ページをはじめとした、入学希望者に向けたアピールページがボリュームアップし、各校の特徴をより詳しく理解していただける仕様になりました。また、オープンキャンパスの紹介ページをトップに配置し、簡単に申込ページに進むことができます。

青森中央文化専門学校は、本校の卒業生であり、全国で活躍するイラストレーター・トヨカワチエさんのイラストと、普段の学校生活やファッ

ションライブの様子などの写真をふんだんに使用した、ポップで楽しいデザインとなっております。

青森中央経理専門学校は、在学生の実習先での写真や、活躍する卒業生からのコメントなど、学校生活～卒業後までのビジョンが想像できるようなページをたくさん用意しました。

学校行事や入試広報についてなど、随時トピックスページにて更新してまいりますので、是非ご覧ください。



◀トヨカワイラスト研究室はこちら



◀経理HP



◀文化HP

青森中央文化専門学校

■ Bunka Fashion Live 2025

2025年2月24日、青森市の複合施設アウガ5階 AV多機能ホールにて、青森中央文化専門学校全学生によるファッションショー「Bunka Fashion Live 2025」を開催しました。本校で学んだ知識と身につけた技術の集大成の発表として、企画・デザイン・制作・構成・演出等の全てを学生がディレクショ

ンしました。1部・2部ともにたくさんの方々にご来場いただきました。

完成度の高いファッションショーを目指し、衣装だけでなく装飾品からウォーキング、メイクアップまで、学生全員が協力して一年かけてショーを作り上げます。それぞれのチームが個性溢れるコレクションを発表し、互いの世界観を

引き立てあうショーとなった今回は、ファッション販売専攻2年 長谷川 朱夏さんのテーマ「Grunge」が、グランプリを受賞しました。



▲グランプリとなった「Grunge」

青森中央文化専門学校

■ 映像制作ワークショップを開催しました



2024年12月7日・14日・21日の3週連続で、映像制作ワークショップを開催しました。ワークショップには、株式会社デルタアイエムシーのクリエイティブディレクター、武田拓郎さんを講師に招き、映像制作の基礎から学びました。

第1回はアプリを使用した絵コンテの制作、第2回は制作した絵コンテを基に撮影と編集の実践、第3回はCM制作というように、盛りだくさんの内容でした。CMは「地元で働く魅力」をテーマに、実際に青森で働き活躍されている方々に出演協力をいただいて制作し、青森県庁横、須藤ビルデジタルサイ

ネージにて放映されました。

ふだん授業では学ぶことのできない映像について詳しく学ぶことができ、とても充実した時間となりました。





青森中央経理専門学校

令和6年度卒業発表を実施しました



2025年2月17日、学術交流会館2階921教室にて、2年生を対象とした「青森中央経理専門学校 令和6年度卒業発表」を開催しました。本発表では、卒業式を3月に控えた2年生20名全員が、会計科目・IT科目・キャリア科目・ファイナンシャル科目・医療科目・観光科目で学んだ、2年間の学習の集大成

として、専門的・社会的なテーマを決め、プレゼンテーションソフトを使用しプレゼンを行いました。

また、昨年に引き続き、ライブ配信を実施し、卒業年次の保護者の皆様と、学園内外の関係者の皆様に視聴いただきました。来場した参加者には評価シートを実施し、卒業式後の祝賀会では、優秀賞1名、努力賞3名を表彰しました。なお、表彰者は以下のとおりです。

- 優秀賞:** 今井 萌々花 (経理事務コース)
努力賞: 木村 研真 (経理事務コース)
 中谷 三華 (医療事務コース)
 松浦 由依 (観光コンシェルジュコース)



青森中央経理専門学校

公開講座を開催しました

2024年11月30日、青森商工会議所会館1階にあるAOMORI STARTUP CENTERにて、公開講座「長期・積立・分散 NISAを活用した資産形成～生活者ひとりひとりのいい人生をつくる～」を開催しました。

長期積立分散投資による資産形成を根付かせた立役者である、中野晴啓氏 (なかのアセットマネジメント株式会社代表取締役社長) を講師に迎え、長期積立分散投資の重要性やNISAのメリッ

トなどをお話していただきました。参加者からは、「投資に対する考え方が変わった」「熱意のあるお話しに



圧倒されました」などの感想がありました。参加された皆さま、ありがとうございました。



青森中央経理専門学校

2024年度研修旅行に行ってきました

2024年11月6日から2泊3日で東京方面へ、33名(2年生20名、1年生13名) 全員参加で研修旅行を実施しました。7日の自主研修日は低温と強風でしたが、それ以外の日程は天候にも恵まれながら、有意義な時間となりました。

全体研修の「東京証券取引所」の他、

医療事務コースと観光コンシェルジュコースは今回初めて体験型英語学習施設「TOKYO GLOBAL GATEWAY」に訪れました。

復路では、新幹線のパンタグラフ異常により、100分遅れで新幹線出発となりました。また、発車後も速度規制や

停止信号の影響で、トータル126分遅れで青森に到着しました。大混雑の東京駅構内での待機や新幹線車内でしたが、体調不良等もなく、予定よりだいぶ遅れましたが全員無事に22時頃帰路につきました。



附属第一・第二・第三幼稚園／中央文化・浦町保育園

教育方針 健康で明るく心豊かな子ども ●友達と仲良く遊ぶ ●思ったことははっきり話す ●よく見、よく聞き、よく考える ●自分のことは自分でやる

附属第一幼稚園



「緑の募金 お願いします！」大きな声で言ったら
たくさん募金してもらえてうれしかったよ♡



お日様ばかばかいいお天気♪
桜の花ってとってもきれいだね☆



初めての保育参観！
ドキドキしたけど、好きなキャラクターに変身して
リトミック活動が楽しかったよ♪

中央文化保育園



バスに乗ってお花見に行きました🚌

浦町保育園



🚗 楽しいドライブ 🚗 大渋滞中で～す！

附属第二幼稚園



「お花見給食」きれいな桜とゆらゆらこいのぼり♪
きもちがいいな♪



「青の煌め気ダンス」かっこよく青森ポーズ♪



「お花きれいだね」園庭で春をみつけた♪

附属第三幼稚園



(左)ひよこ組 (右)うぐいす組 仲良しさんです



(左)かなりや組 お花見たのしいね
(右)こばと組 桜の下でハイポーズ



(左)つばめ組 花とどっちがかわいい？
(右)はくちょう組 みんなでこいのぼりつくったよ！



手作りこいのぼりと一緒にハイポーズ📷



自分で選んだお花の種を植えて育てるよ🌸



🌸お花見ランチ🌸いいお顔でおいしいね。



🌸園庭の桜は、満開でした！🌸

成長を支える存在でありたい

私は青森中央短期大学附属幼稚園に勤務して5年目となり、今年度は3歳児を担当しています。子どもたちには、純粋な発言や行動に日々驚かされ、癒され、笑顔にさせてもらっています。入園当初は慣れない環境に不安を感じて泣いていた子も、少しずつ園生活に慣れ、笑顔で「先生大好き!」「今日も楽しかった!」などとお話をしてくれることが増えました。このような変化はとてもしっかりで小さな一歩かもしれませんが、子どもたちにとっては大きな成長です。その瞬間に立ち会えることが、私が幼稚

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園
塩谷 ひまり先生



園教諭として働く上での大きなやりがいだと思っています。また、友達との関わり方を学びながら、少しずつ社会性を身につけていく姿を見て、私の関わりが子どもの人生の一部になっていることも実感します。

今後も自分自身の学びを止めず、子ども一人ひとりに向き合い、安心できる居場所をつくりながら、成長を支える存在でありたいです。

豊かな食体験と健やかな成長を願って

栄養士の仕事の魅力は、食を通して人を元気にし、幸せにできることだと思います。私は、小さい頃から食べることが大好きで、祖母と一緒に畑で食べ物を育てたり、お餅つきやおせち料理作りをして日本の伝統文化を学んだり、友達と一緒にお菓子を作ったりと楽しい食体験をしてきました。その楽しかった思い出を子どもたちにも食育や給食、幼稚園での行事を通して体験してもらいたいと思っています。一緒に食べ物に触れたり、食べ物の知識を増やしたり、恵方巻き作りなどの料理体験から、食に

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園
栄養教諭 木立 舞さん



興味・関心を持ち、将来は自分たちで食を選択する力を身につけ、命の大切さを知り、食べることが大好きになってもらえるお手伝いをしていきたいです。これからも子どもたちが、健康で元気に成長していくために栄養バランスを考えた給食を作り、そして心豊かな子どもに育つよう先生方と一緒に頑張っていきたいです。

子どもたちと同じ目線

青森中央短期大学附属第三幼稚園に勤務して、今年で6年目になりました。将来は、子どもに関わる仕事に就きたいと思っていたので、子どもたちの成長を身近で感じられる保育者という仕事ができ、とても嬉しく思います。忙しい日々ではありますが、可愛い子どもたちと一緒に毎日楽しく過ごしています。今年度は、元気いっぱいの2歳児クラスになりました。一人ひとり個性豊かな性格に圧倒されることもあります(笑)、いつもパワーをもらっています。職員同士、「今日はこの活動どうだった?」と保育を確認し合ったり、子どもの可愛いエピソードなどを

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園
松尾 奏先生



▲砂場で「ハイ、ど〜ぞ!」

話したりすることも楽しい時間です。さまざまな遊びや玩具に対して、面白いアクションしてくれるので、「じゃあ次はこうしてみよう。」と子どもたちからヒントをもらい、次の活動を考えることも多いです。子どもの小さな変化に気づき、たくさん褒めたり話をしたりしながら、これからも子どもたちと一緒に成長していきたいと思っています。

読み聞かせたい一冊の絵本

そそそそ

たなかひかる作 (ポプラ社)

この本に登場するのは、「そそそそ」、「にゅーん」などのオノマトペと、独特な表情の動物たち。最初は「なんだ?」と不思議そうな子どもたちも、一緒に言葉を真似たり、展開に大笑いしたり…シュールな世界に夢中になって楽しんでいます。

絵本の時間になると「『そそそそ』がいい!」と必ずリクエストがくる、子どもも大人も癖になっちゃう絵本です。



幼保連携型認定こども園中央文化保育園 澤口 聡美先生

2024年度 卒業式スナップ

ご卒業おめでとうございます。皆様のご活躍を心からお祈り申し上げます。

青森中央学院大学・大学院
学位記・修了証書授与式
(2025年3月17日)



青森中央短期大学
学位記・修了証書授与式
(2025年3月15日)



青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校
卒業証書授与式(2025年3月20日)



2025年度 入学式を挙りました

2025年4月、本学瑞力館において、青森田中学園設置校の入学式を挙りました。新入学生並びにご家族の皆さま、改めてお祝い申し上げます。充実した学園生活と皆さまの夢の実現に向けて、教職員一同努めてまいります。

青森中央学院大学・大学院
経営法学部182名、看護学
部74名、大学院地域マネジ
メント研究科10名、別科助産専攻4名の
合計270名の新入生を迎えました。



青森中央短期大学
食物栄養学科39名、幼児
保育学科40名の合計79名
の新入生を迎えました。



青森中央経理専門学校・
青森中央文化専門学校

青森中央経理専門学校15名、青森中
央文化専門学校11名の新入生を迎え
ました。





新教職員紹介

青森中央学院大学

*経営法学部



准教授 **松本 大吾** (まつもと だいご)
 出身 青森県
 担当 簿記論、地域経営論、情報処理Ⅲ



講師 **市川 聖** (いちかわ たかし)
 出身 鳥取県
 担当 マクロ経済学、アジア経済論、地域政策論、
 経営経済データ分析論I、暮らしと経済



講師 **川村 陽彦** (かわむら はるひこ)
 青森県
 担当 行政学、現代政治論

*看護学部



助教 **石井 真由美** (いしい まゆみ)
 出身 福島県
 担当 基礎看護学

青森中央文化専門学校



教諭 **久慈 雅世** (くじまよ)
 出身 青森県
 担当 服飾造形

事務局



今井 昌敏 (いまい まさとし)
 出身 青森県
 担当 学生生活支援課



成 昱睿 (チェン ユーレイ)
 出身 台北市
 担当 国際交流課

認定こども園青森中央短期大学附属第一幼稚園



米沢 羽菜 (よねざわ はな)
 出身 青森県
 担当 4歳児ひまわり組

認定こども園青森中央短期大学附属第二幼稚園



鈴木 一雄 (すずき かずお)
 出身 青森県
 担当 送迎バス運転

認定こども園青森中央短期大学附属第三幼稚園



間山 桜 (まやまさくら)
 出身 青森県
 担当 0歳児ひよこ組

幼保連携型認定こども園浦町保育園



加藤 八重子 (かとう やえこ)
 出身 青森県
 担当 0歳児つぼみ組(看護師)



成田 真臣 (なりた まお)
 出身 青森県
 担当 2歳児たんぽぽ1組

青森田中学園は2026年に創立80年を迎えます

戦後間もない1946年(昭和21)、青森市浦町に久保豊先生と久保ちる先生が「青森裁縫学院」と「青森珠算簿記学院」を開学。ここから学園の歴史が始まりました。1956年(昭和31)、創立10周年を機に、鉄筋コンクリート4階建ての円型校舎を竣工。モダンな校舎を見学しようと多くの人々が訪れました。そして青森中央女子短期大学(現青森中央短期大学)が開学した1970年(昭和45)、短大校舎(現1号館)周囲は、まだ田畑が広がっていました。



▲当時の青森裁縫学院の卒業式



▲円型校舎



▲1970年頃の1号館

青森田中学園報「こぶしの花」第113号

発行:2025年6月

学校法人 青森田中学園

〒030-0132 青森市横内字神田12-1

TEL:017-728-0121

FAX:017-738-8333

「青森中央学院大学・青森中央短期大学 学園広報」より



「こぶしの花」
バックナンバー



「こぶしの花」編集委員

編集長 加藤 澄

熊谷和可子 石井真由美

外崎 秀香 畑山 朗詠

久慈 雅世 赤坂 裕子

中田 尋美 岩葉 悦子

蝦名久美子 町田美智子



こぶしの花に投稿しませんか

こぶしの花編集委員会では、学園報に掲載する写真や情報を募集しています。皆さんからの投稿をお待ちしています。

コチラの
申込フォームを
ご利用下さい



青森中央学院大学 <https://www.aomoricgu.ac.jp>

青森中央短期大学 <https://www.chutan.ac.jp>

青森中央経理専門学校 <https://ackeiri.ac.jp>

青森中央文化専門学校 <https://acbunka.ac.jp>

認定こども園青森中央短期大学附属幼稚園(第一・第二・第三)

<https://www.chutan.ac.jp/kg>

幼保連携型認定こども園中央文化保育園 <https://www.chuobunka.site>

幼保連携型認定こども園浦町保育園 <https://uramachi.site>